

少女は、海から来たのかも知れない

少女モナ、18才、冬の旅

プラタナスが死んでゆく

南フランスの冬景色に燃えあがる

青春のさすらい

女性監督アニエス・ヴァルダの

美と映像詩の傑作!



85年ヴェネチア国際映画祭  金獅子賞[グランプリ]受賞

# 冬の旅

アニエス・ヴァルダ監督・脚本作品 ◆ サンドリーヌ・ボネール主演

85年ヴェネチア国際映画祭国際映画批評家協会賞、OCIC賞 / 86年ロサンゼルス映画批評家協会最優秀外国映画賞 / フランス映画批評家協会最優秀作品賞[ジョルジュ・メリエス賞] / ブリュッセル映画祭最優秀作品賞、最優秀監督賞 / セザール賞最優秀主演女優賞

サンドリーヌ・ボネール、マーシャ・メリル、ステファヌ・フレス、ヨランド・モロー、バトリック・レブシンスキ ● 撮影バトリック・フロシエ / 音楽ジョアンナ・プリュスト、ヴィチュ・THE DOORS、LES RITA、MITSUOKO / 録音ジャン・ポール・ミュジェル / 制作ウーリー・ミルシュテン ● 製作CINE-TAMARIS + FILMS A2 ● ©1985 AGNES VARDA - CINE-TAMARIS, FILMS A2 ● カラー、フランス映画

 フランス映画社配給  
パウ・シリーズ作品



sans toit ni loi



流麗でありながら荘重、悲劇でありながら一瞬も失われない明るさ。死にゆくプラタナスの樹と、18歳の少女モナの、自由奔放な旅を重ねあわせた「冬の旅」は、アニエス・ヴァルダ監督の長編第11作。

「5時から7時までのクレオ」(61)や「幸福」(65)で、ヌーヴェル・ヴァーグの花、女性監督の第一人者、とうたわれたアニエス・ヴァルダの「歌う女、歌わない女」(70)以来10年ぶりの新作で、ポエジーが全編に深く脈うつ堂々たる傑作だ。

85年9月ヴェネチア国際映画祭に出品して、最高賞の金獅子賞(グランプリ)と、国際映画批評家協会賞とをあわせて受賞。つづくベルギーのブリュッセル映画祭でも最優秀作品賞と最優秀監督賞。

フランス映画批評家協会による1985年度フランス映画最優秀作品賞のジヨルジュ・メリエス賞も受賞。

アメリカでも、ロサンゼルス映画批評家協会の外国語映画部門の最優秀作品賞と、サンドリーヌ・ボネールに対する外国映画主演女優賞のダブル受賞。

そして、セザール賞でもボネールへの最優秀主演女優賞。これほど、賞という賞を総ざらいした快挙は近年ない。

しかも、その間、いかに傑作の声評が高かろうと、18歳のサンドリーヌ・ボネールの若者人気がいかに強いといえども、フランス全国のアート・シアター系小劇場チェーンの公開では5年に一度もあるかないかの、百万人を超える若者が劇場に詰めかける奇跡的なヒットを実現してしまった。

海から来たのかも知れない、とヴァルダ自身の声が語りかける少女モナの、青春のさすらいが若者たちの心をしつかりとらえた。



●ヴァルダ芸術の輝きが、物語の絶望感を凌駕する。あらゆる常識的な形式や慣習、先入観を超越する陶酔感にひたらせてくれる。まぎれもなく本年最高の映画。

●アンドリュウ・サリス 米(ウイレツジ・ヴォイス)紙 ●大胆で、力強く、感動的な作品。●フィリップ・サラシユ《ブルミエール》誌 ●ボネールの演技が、心に焼きついて離れない完璧さ。今も彼女が忘れられない。●シムラ・ベンソン 米(ロサンゼルス・タイムズ)紙

85年ヴェネチア国際映画祭  
金獅子賞[グランプリ]受賞  
国際映画批評家協会賞

# 冬の旅

sans toit ni loi

アニエス・ヴァルダ監督作品

フランス映画社配給  
バウ・シリーズ作品

少女がひとり、旅にさすらいたあげくに死んだ。冬のひとつの小さな事件。自然死だったか否か、そんなことは警察が決める。彼女の、何をとらえることができたか、路上で、彼女と出会った人々が何を感じたか、それが私の映画のテーマだ。

彼女、モナのように、私たちがさすらい、人々と出会い、さまざまな場を発見し、何にも縛られることのない自由な放浪者として、誰からもとらわれることのない歓びを味わった。

モナは旅を選んだ。路上には、日常的に暴力があり、飢えと渇き、恐怖、そして寒さがある。彼女はそれを生きし、何事が起ころうと、誰と出会うとも意に介しない。

この映画はモナと人々の間を行き来する。いくつもの人生が行き来する。私はこの映画のどの登場人物も大好きだ。冬景色のおちこちにおいて、その中を遠くから、反抗少女がひとり、私たちのほうに歩いてくる。



【スタッフ】  
監督・脚本……………アニエス・ヴァルダ  
撮影……………パトリック・プロシエ  
音楽……………ジョアンナ・プリズドヴィチュ  
THE DOORS, LES RITA MITSOUKO  
録音……………ジャン・ポール・ミュジエ  
制作……………ウーリー・ミルシュテン

【キャスト】  
モナ……………サンドリーヌ・ボネール  
ランディエ教授……………マーシャ・メリス  
技師ジャン=ピエール……………ステファヌ・フレス  
ヨランド……………ヨランド・モロー  
ポロ……………ジョエル・フォックス  
ダヴィッド……………パトリック・レブシンスキ

1985年フランス映画/製作CINE - TAMARIS+FILMS  
A2/製作協力 フランス文化省+CHANNEL FOUR +  
CMCC/カラー 1x1.75(ビスタ)/日本語字幕 斎藤敦子  
宣伝デザイン 小笠原正勝/全5巻2,906M/1時間46分  
©AGNES VARDA - CINE - TAMARIS, FILMS A2

少女モナのサンドリーヌ・ボネールは、15歳の時にモーリス・ピアラ監督「愛の記念に」でデビューして、「冬の旅」の時は18歳。過去や背景の説明は一切ないモナ役の、共演者は殆どが素人で、脚本はわずか2ページのイメーজ台本だけ。セリフの撮影台本は毎夜ヴァルダが書くものを、朝受けとって、撮影に入る。

そんな条件を受けての、ボネールは、大胆に、そしてみずみずしくモナになりきった。一度しか会わない人々との出会いのぬくもり、南仏の冬景色がはじければはじけほど熱く燃えあがっていく青春が、ヴァルダの流麗な映画筆致で、生々しく、ポエチックに、そして常に明るく描き出される。

音楽は、ポーランド出身の女流作曲家ジョアンナ・プリズドヴィチュ。録音はヴィム・ヴェンダース作品でおなじみのジャン・ポール・ミュジエ。素人共演者の中で、名女優マーシャ・メリルが鮮やかな存在感を示している。

10月下旬より  
独占ロードショー

日比谷・東宝映画街

## シャンテシネ2

03(3591)1511

平日	12:40	2:50	5:00	7:10	
日・祝	10:30	12:40	2:50	5:00	7:10

特別鑑賞券1400円  
好評発売中 (当日一般1700円の処)

劇場窓口、都内各プレイガイド、チケットぴあ、  
チケットセン、丸井チケットガイド、大学生協 他。  
●グループ鑑賞のお申込は株式会社(3541)2508へ。